

令和4年 市政ふれあい懇談会要旨

- 開催日時 令和4年11月23日（祝）14時～15時40分
- 開催場所 新木近隣センター
- 参加者 市民20名
- 出席者 星野市長、山元企画総務部長、小林財政部長、海老原市民生活部長、山本環境経済部長、南川建設部長、森都市部長、担当課長等12名
- 懇談要旨

市民：私は、新木団地新木地区の見守りネットワークを担当しておりますが、現在要支援者が50名、協力員が101名で構成されていて、ちょうど10年になりました。日常の見守りは、順調に行っております。心配なのは、非常災害時の行動が、果たして我々が考えている通りの避難支援等ができるのかどうか、審議しております。

そこでお伺いしますが、国の改正災害対策基本法が、21年の5月に改正されております。

現在、各市町村では、努力義務として避難行動要支援者の個別計画策定が義務づけられておりますが、我孫子市で該当人員が何名いるのか、そして現在の進捗状況はどうなっているのかをお聞きしたいと思います。よろしくお願ひします。

市民生活部長：ご質問ありがとうございます。個別計画については、それぞれその方にあった形で計画を定めるように決められておりますので、なかなか市としても、一人一人それぞれに計画を作るのは、他の市町村も同じですが、どういった形で進めていくか非常に苦慮しているところです。ただ、国から示されております通り、そういった計画も必要となってきますので、要支援者の方については、例えば、ケアマネージャーなど福祉の方とも連携しながら、計画の方を作っていきたいと考えています。人数については、担当の方でわかれば、後ほどご回答させていただければと思います。

市民：先日、吾妻台の下の通学路の舗装が終わりまして、特に中学生が自転車で通学しているので、安全になったかと思ひます。大変ありがとうございました。本日質問したのは、先月地域会議がありまして、その地域会議の中で、実は、親戚の女性がオレオレ詐欺にあい、金銭的というよりも、精神的に被害が大きくて、どこに相談したらいいかという話がでました。そういったようなケアをうまく相談できるような窓口があるのかどうか、逆にオレオレ詐欺は、どちらかというとな金銭的な問題なので心のケアがうまく行かないと思ひます。これからますます被害が増えてくるかと思ひます、すごく不安ですので、そういったことを前提に、何とか救いの手を差し伸べてほしいという切実な要望という意見がありました。よろしくお願ひいたします。

市長：私もオレオレ詐欺の被害については警察から聞いていますが、被害に遭った後にメンタルケアが必要になったケースは初めてお伺ひしました。私も今どこで相談を受けられるのか、はっきり答えられませんが福祉部と相談をさせてもらって、あとでご連

絡をさせていただきます。もし相談窓口がなかったとしたら、検討をしてみたいと思います。多分、一番身近にある高齢者なんでも相談室の方が便利なのかもしれません。ご連絡させていただきます。

市 民：先日、クリーンセンターに行く道と県営住宅の方から来る、吾妻台の三叉路は舗装が綺麗になりまして、それはありがたいのですが、あの道路は、通学路です。それが通学路という文字が全然入っていないのです。クリーンセンターから来る道と体育館からの道の所に何も表示がないと、逆に道が良くなったことに対して、車のスピードが上がっているようです。すごく危ないと思うので、通学路であるという表示など規制を入れてほしいと思いますので、よろしくお願いします。

建設部長：舗装の方は、お時間をいただいて申し訳なかったのですが、10月の中旬頃には完了したというふうに私の方も把握しております。確かに道路が良くなるとスピードが上がってしまう、一長一短いろんな部分があると思います。

通学の表示やそれからスピードの抑制の啓発と言いますか、そういった注意看板なども含めて、教育委員会の方とも協議をしながら検討させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

市 民：国道16号への利根川沿いのバイパスについて、いつ頃実現しそうなのか、簡単に説明願います。

市 長：基本的には国道16号へのバイパスについては、今はありません。あくまでも外環道と圏央道の間にもう1本自動車専用道路を作って、この東葛北部の特に国道16号の渋滞を解消しつつ、通過交通はそちらに流すという考え方に変わっています。

ただ、その中で利根川のルートが最適ではないかという前提で話は進んでいますが、まだルートは決まっていません。国会答弁の中では30年ぐらい先という話になっています。この道路については、以前、外環道が完成したら、国道16号の渋滞はもう少し緩和されるのではないかということで、国の方は期待をしていたのですが、外環道が完成して数年経っても全然国道16号の渋滞は解消しない。それどころか、全国でもトップクラスの渋滞率であるということが確認されて、印西千葉ニュータウンも含めて今、かなりの物流拠点が持ち上がっています。物流はこの周辺に必要な状況ですけども、そのような状況の中で国道16号と国道6号が交差する部分で、国道16号が渋滞すると国道6号も影響します。

3年前の台風では、北新田が水没しました。あの段階で北新田の中の道路が水没したら、当然この道路を通過していた車が、国道6号と国道16号に全部流れていきました。それによって、もっとひどい渋滞が起こってしまったという状況も鑑みて、国としては、いわゆる企業が進出しやすい交通量と国道16号の状態をこのまま放っておいては非常にもったいないという状況の中で、外環と圏央道の間にもう1本道路をつくるという感じで考えてお

ります。国道16号のバイパス機能は補完されますが、目標目的が少し変わってきたというように理解をしていただければと思っております。この前のシンポジウムでは、必要性和デメリットを中心に話がありましたが、当然デメリットはあろうかと思えます。それを踏まえながら、今まだ千葉国道事務所のレベルで動いていますが、これが本格的に行われるとなると、関東地方整備局のレベルよりも少し大きな事業の決定に繋がっていくかと思っております。今のところ国道16号の野田からずっと南下して行って松戸から成田空港に向かって国道464号がありますが、そこにつきあたり、そこから先は、千葉方面に向かうという構想で、1期工事として計画をして、いろんな地域に意見公募を求めながら、少しずつ練り上げていくという予定です。国会答弁では30年と言っていますから、少なくとも20年はかかるのではないかと思っております。あとは、その周辺の用地買収のご協力がどれくらいあるかによるものと思っております。ただ、一般国道ではないということだけは理解していただいて、自動車専用道路ですから、一般車両は、いくつかのインターチェンジからしか利用できないという状況になると理解していただければと思っております。

市民：地域まちづくり協議会のことでお伺いいたします。先ほど市長の方から地域作りに携わるその人材育成が行われているということですが、この地域も高齢者は平均の54%、さらに10%ぐらい上です。いろいろな行事をするのにも、若手の人がないので、非常に苦労をしているところです。実はこの後、「あわんどり」をやるわけですが、その芝刈りをやったり、移動したりするのも非常に苦労しています。なかなか自治会との連携が、うまくいなくて、応援してくださる方も非常に少ないということで苦労しています。

こういったことに対して、市長の方で何か応援体制とか、それに代わるようなものがあるのかということと、この地域は今年度で30周年を迎えます。地域の方にそういうことに対して何かしら援助金が出るのかどうか、いろいろこれから企画して検討していくわけですが、今日、市長がいらっしゃるので質問しました。よろしく願います。

市民生活部長：高齢化が進む地域においては、これはどこの団体もそうなのですが、ボランティア団体も同様です。担い手が我孫子市全体で不足している状況です。そういったことを受けて、我孫子市では、まちづくりに参画していただけるような方を、コーディネーターとして育成して、地域の中で活躍していただけるように、そして、まち協の中にも入っていただけるような形で進めていければと、考えております。今年度から始めている状況ですので、広げていきたいと考えております。

市長：結論から言いますと30周年について、そのような予算はつけておりません。そういう声があったということは、今日担当も来ていますし部長もおりますので、持ち帰らせていただきます。来年度は我孫子市の小学校150周年を迎える学校が三つあります。我孫子第1小学校、湖北小学校、布佐小学校が来年150周年を迎えます。

それについても予算をつけていないのですが、少なくとも学校がどういう形で150周年

を迎えるのかをバックアップしようとは思っています。来年150周年を迎える小学校は三つもあるということは、私としては誇りです。

そういう状況の中で150年前、寺子屋から、今の昔からあったお寺の本堂を使いながら小学校を開設して行って、今の我孫子の町が、我孫子町の教育があるんだということを皆さんにも知ってもらいながら、私もその卒業生の1人ですけれども、皆さんで我孫子の教育についてこれから先の50年の教育をどうしていきたいか、ということも踏まえながら考えていければと思っております。ちなみに、この新木小学校も湖北小学校がいっぱいになって、最初に分校で出たのが湖北台西小学校で、その後、西小学校から分校として東小学校ができてから、さらに子供が多くなって、新木小学校ができましたけれども、やっぱりこの湖北地区の子供たちが元気で、学校生活を送っているのを見ると、私も非常に嬉しい限りで、子供たちがこの小学校を卒業した後の社会人になったときに、何らかの形で、自分はこの学校の卒業生だと自慢できるような子供たちを育てていきたいですし、支えていきたいと思っています。その際は、またご協力いただければと思います。

市民：先日、地域会議を開催いたしまして、一応のテーマは防災なのですが、その一環としてやはりオレオレ詐欺が話題に生まれて、新木野地区は、警察から言わせるとモデル地区で数件の被害があったそうです。そういうことでいろいろ皆さんとお話したのですが、その中で防犯には電話の録音機設置が非常に有効ではないかということで、私も一つ設置しています。必ず「録音します。」ということをもまず言うと、大体電話は切れてしまいます。こういった補助は、他市でも出ているようで、Amazonとかで調べますと大体6,000円ぐらいの金額で設置できるわけです。ですから、例えば、そのうちの3分の1だとか、半分ほどだとか、松戸ですとそういう費用が出ていると聞きましたので、検討をよろしくお願ひしたいと思ひます。

市民生活部長：柏、市川、松戸市あたりでは、こういった補助は行っているようです。「録音します。」と答える電話は、非常に有効かと思ひますが、通常留守番電話であってもそれは可能だと思ひますし、また最近詐欺で多いのが、例えば、スマホに詐欺のメールが届いたりですとか、固定電話だけでなく、いろいろな手口で犯罪者というのは考えるもので、確かに一つの有効なものかと思ひますが、財政的なこともありますので、なかなかこの場でお返事はできませんけれども、近隣市の動向などを調査してみたいと思ひます。

市長：今、部長からあったように、詐欺は、いろいろな方法で手を変え品を変えてきます。通常電話機で留守番電話を設定しておくで録音だとわかれば、電話はすぐ切れます。留守電になっても電話から声が出てきた時に、誰であるかわかってから電話に出ればいいのです。前にも警察からそのアドバイスしたのですが、ほとんどの人たちがそれを実行せず、ついつい電話がなると出てしまうそうです。留守電にしてあるのに、電話にでてしまうということをもさせないようにするのは、なかなか厳しいなと感じました。

これが有効だよと言って、それをやってくれなければ進まないですし、こういう機能をつけたいと言っても、誰が頼んでくれるのだろうかということ、また、どのぐらい効果があるものなのかということも含めて、チェックしてみたいと思っています。

やはり常に理解をしているにも関わらず、自分の孫からだと思いついてしまった段階で、もう誘導されているのです。詐欺件数も少なくなってきたと聞いておりましたが、まだ騙されている人がかなりいるのだという現状を見ながら、財政状況もそうですが、警察とも連携を深めて状況情報を得ていきたいと思っています。これについては、少しお時間をください。

市民：あびバスの問題です。最近、あびバスがあまりこなくて、すごく困っています。乗らないとあびバスは無くなってしまうのか、そして乗るにしても、もう少し時間帯によってバスを多く走らせていただくということは可能かについて、よろしく願います。

建設部長：新木ルートに関しましては5年ぐらい前になりますが、再編という形で今のルートで了解をいただいて、車両の台数、追加保有台数、それから委託しておりますので、企業の運転手の確保なども含めて、いろんなことを検討して、こういう形にさせていただいております。従って、今の段階で台数を増やすということは出来ない状況であります。ただ、なくなってしまうかということについては、それは全くそういったことはありませんので、そこについてはご心配いただかなくても結構だと思います。便数を増やすということになりますと、車両の確保と運転士の確保、それからルートの話も出て総合的な話になってしまいますので、今のところ現状のままでいくということをご理解いただければと思っております。

市長：実際に市としては、成田線の便数がなかなか増えないものですから、バス路線も考えていましたが、3年前からのコロナ禍で利用する人が減ってきたものですから、乗る人がいないのに増やすことはできない状況です。実は、布佐駅から天王台駅までの路線バスを新木駅ルートをかためながら、再編できないかということを検討していたのですが、その検討の途中でコロナ禍になってしまって、成田線もバスも乗る人が激減してしまったせいで、実証実験も出来なくなってしまいました。国道356号を走っているバスも、かなり減ってきました。阪東バスとしては、出来れば廃止をしたいというくらい状況にまで乗客数が減ってきているのです。そういう状況で、あびバスの新木ルートについても皆さんから意見は聞いております。本数を増やそうと思うのでしたら、なるべく真っすぐ進むこととなります。細かく回れば時間がかかります。そうすると、便数は増えません。どちらをとるかという現状と、この国道356号を中心に走る路線バスで、あとは布佐駅の南側から新木駅の南側までの路線バスを天王台まで延伸できるかというのを含めて、検証していく予定でした。もう少しコロナの状況が落ち着いて、皆さんが通常の状態に近づきましたら、どの時間帯に増やしたらいいのか、どの時間帯はほとんど利用

がないのか、ということを検討していきたいと思っています。当然、利用者が少ない時間帯に行なおうと思いませんから、あびバスと同じように市がその赤字を補填しながら運行しない限りは、今の利用者数からしましたら、多分、路線バスは成り立たないというように思っています。条件を踏まえながら、私としては成田線を補完する路線バスとして考えています。その時には、もしかしたら新木ルートも再編の形をとりながら、見直しをしていけるかも知れません。そして、新木の皆さんがどちらを優先したいかというのも含めて、ご意見を頂戴したいと思いますので、その時は、よろしくお願ひしたいと思います。

市民：まちづくり協議会の委員をやっております。その中で、地域会議を行いまして、ご報告ですけれども21回会議を重ねてまいりました。そのうち2回これまで中止になりましたけれども、防災をはじめ、移動販売の関係とか、そういう提案をさせていただいて成果が上がっていると思っておりますけれども、なかなか人材が集まらない。

私も、もう後期高齢者になってしまい、そういう環境を作っていくのが難しくなっています。そういう流れの中で、地域コーディネーター育成講座とかそういうものを踏まえて、やはり現役の皆さんがいかにその地域で、真剣に考えていくべきではないかと思っています。そういう意味で10年前に地域活性化の推進ということで、施策が打ち出されて、地域会議が始まっておるのですが、そろそろそういった形の中で、地域会議のあり方をもう少し市としてご検討いただければありがたいなと思います。

地域のコミュニケーションは自治会が中心になって行うのですけれども、新木地区16自治会ありますが、大体半分ぐらいしか出席されません。やっぱり大きい自治会と小さい自治会がありますので、それぞれこれらの関係で出席するのは嫌だという方も結構おられまして、ぜひその地域会議のあり方というものについて、もう少し詰めていただければありがたいなと思っております。一つご指導いただきたく、よろしくお願ひします。

市民生活部長：先ほどのご質問と一部重複するかもしれませんが、やはり市としましても、そういった人材の育成を行っていく中で、地域で活躍する人を増やしていきたいと考えております。また、ご質問にもありましたとおり、コロナでなかなか人が集まりづらくなっているかと思っております。特に若い世代の方々は、子育て世代ということもあって、なかなか会議に参加することは難しい状況であろうかと思っております。

市としましてもオンライン化という部分もありますし、ご自宅でも参加できるような、そういった会議の方法も、今後考えていかなくはないと思っております。今後も地域会議のあり方については、当然、市としましても考えていきたいと思っています。

市民：つい先日ですけれども、新木団地自治会とあらき野さんと合同で自治会の防災訓練を行いました。防災訓練でいろいろ行ったのが、自治会としては、やはり地震発生という想定でした。いろいろな項目を自治会として網羅して行っていますが、一番出る問題

というのが、ハザードマップでは、新木は水害地域です。水がやってくる時にその自治会の中の公園に集まるということは出来ません。だから、そういうところが自治会としてちょっと無理が来ていると思っています。いろんな障害のために、こんなことやりましょうよと言っているけれど、それがどういう手順でどうくるのかというのが一切わからないのです。実際に避難訓練する度合いをどうしたらいいのでしょうか。どんな影響があって、どんなものが足らなくて、どんな想定をしなくてはいけないか。市役所の人に去年聞いたのですが、担当者はそれぞれの担当を決めましょうと言っています。その担当者が来て何をしなくてはいけないのか、まち協と市と、それから自治会、ボランティア団体と共同で行って、足りない部分などを協議していく方が良いのではないかと思います。そういった話題は結構出るのです。つまり、自治会独自では、出来ないのです。ですから、市とまち協と、それから自治会、ボランティアで、一年ごとか半年ごとかで、それぞれのまち協の区分ごとに協議をやると思うのですが、そういったことを市は考えているのか、そういうことができるのかどうかということをお聞きしたいです。

市民生活部長：災害時にどういったことが起きうるのかというのは、いろんな形で想定しておかないと、その場での判断はなかなか難しい部分もありますし、普段から避難訓練ですとかそういった話し合いの場を設けることが重要です。お年寄りの方はどういったことができるのか、自助ではどういったことが必要なのか、こういったお話し合いというのは必要だと思います。先ほどから地域会議というお話が出ておりますけれども、それこそまさにこの地域での課題ということだと思います。そういった場において、例えば防災の担当職員が伺って、どういったものが必要なのかとか、こういったものがどういった場合に想定できるのかなど、話の中で共通認識していくということは非常に大事かと思っています。ですから、その既存の部分で、地域会議を有効に活用していただき、共通認識を図ればよろしいのではないかと考えます。また水害については、利根川上流の栗橋の方で満水になってから、我孫子に届くまでかなり時間的余裕もありますので、すぐに避難しなくてはいけないという状況には、おそらく我孫子はならないと思います。我々としても上流部が満水になったときについては、避難者への指示ですとか、警報などを出していきますので、ご理解いただければと思います。

市長：確かにこの新木野地区は利根川の堤防が決壊した場合には、ほぼ全部水没してしまいます。それも2階の屋根に登らなければいけないというぐらいになりますから、基本的には国道356号を目標にして避難してほしいという地域です。その時に、いま部長が言ったように栗橋の水位で大体6時間。芽吹橋で約2時間の余裕がありますから、結構時間的には余裕があります。栗橋の位置でちょっと不安だなと思ったときに、6時間ありますので、慌てずに国道356号のあたりに出ていただいて、例えば知り合いや親戚がいるのであれば、そこの家に避難する。あるいはこの新木小学校だとか、新木近隣センターぐらいの高さのところまで避難する、と頭に入れていただきたいと思います。芽吹橋でもま

だ水が引かないとなると、あと2時間ですから、そろそろ動かなくてはいけないとなりますが、それは皆さん方が、あるいはそのご家族が、車椅子で移動しなくてはいけない方がいるのか、それともゆっくり歩けば、1時間もかからずに避難所まで上がってこれるのか。それをご自分のご家族の状況を踏まえながら、自分なりに想定しておいていただくとありがたいと思っています。我孫子の場合は、利根川の堤防が決壊したときと手賀沼の水があふれるときと、あと斜面のがけ崩れのこの三つのパターンが考えられますが、この三つのパターンで避難する場所は変わりますから、ご自分のエリアはどこに気をつけなくてはならないかというのを、まず把握していただきたいと思います。全員が避難所に収容できる数を用意はできませんから、そこはご自分の家は、こういう災害のときに避難所に行かなくてはならない、行かなくていいのかということも含めながら、ご自分の場所あるいはその周辺の公園だとか広い場所を再度、チェックして欲しいと思います。

自助と、そして共助が先に来て、公助が来るまでにはしばらく時間がかかります。市は、市内全体を見渡して、どこにどれだけの物を、どれだけの人を集めなくてはならないかというのが、情報が入り次第動き出しますから、それまで、自助と共助に頼るんだと思ってください。まず、自分の身を守るために低地にいるのであれば、高いところへ、高いところにいる人は、自分の知り合いや友人が低地に住んでいれば、お声掛けをお願いします。そういうことを含めながら、自助と共助をまずはご検討いただきたいと思います。

この近隣センターも当然避難所になりますけども、万が一の場合、ここは福祉避難所として、いわゆる高齢者と小さいお子さんを持った方を優先にさせていただいて、小学校が通常の方たちの避難所になりますが、とりあえずそれは後の話で、まずは高台に逃げてください。その上で、どの建物にどなたが入っていくかということも含めて、再度検討していただきたいと思っています。まずは命を守る行動をとっていただければと思っています。

まち協の皆さんが、あるいは自治会の皆さんが、ある程度まとまって、訓練したいというご相談をいただければ、どのような訓練をしたらよいか、相談にも乗らせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

市民：今の方の質問に繋がるものだと思うのですが、その水害のときに国道356号が高台にありますね。そうしますと国道沿いの大きな建物は平和台病院と創価学会の建物、それから气象台公園に避難するようになると思うのですが、气象台公園は公園なので屋根がないですから、一旦避難する場所としては優れているのですが、その後どうするかという問題があって、あと創価学会の建物は常に稼働はしてなくて、催し物というか会議があるときに使われているだけで、非常に我々から見るとちょっと勿体ないなという感覚があります。多分、創価学会の建物を建てているときから、避難場所のお話をされているのかと認識しておりますが、その辺はどうなっているのでしょうか？病院の方は、問題はそんなにないと思うのですが。

市長：ご指摘のように、まずは命を守るために、例えば大雨が降っていても、まずは公園に集まる。その後、市としても避難所を運営して開設していきますから、そちらに誘導するときに、その中で優先させていただくのは高齢者と持病を持っている人だとか、あるいは小さいお子さんを抱えている人たちを優先させてもらって、若い元気な方々はその後になる可能性はあります。よっぽどひどい災害のときは、創価学会の会館についても、今、調整はしており、一応協力してくれる方向ではありますが、ただ、まだ協定書の締結まで行っていません。ただ、いずれは避難所として活用させていただくというように理解をしていただければと思います。協定を結んで、例えば民間の協力してくれる施設というのは、まず市として避難所を開設できるだけ開設し、まだ足りないので、協力をしてもらうという順番になります。実際には、この周辺は近隣センターと新木小学校ぐらいしかありませんから、災害の規模によっては、この二つで足りてしまう可能性もあると理解していただければと思っています。あと平和台病院については、ここは我孫子市の東側の基幹病院ですから、ここに大量に人が来てしまうと病院の機能が停止してしまいます。万が一、避難しているときに具合が悪くなったり怪我をしたりした人がいたときに、救急搬送の障害になりますから、病院が開放されるというのはまず、考えないで欲しいと思います。病院の道路の反対側にある駐車場とか、そういう広い場所に一時的に避難していただいた中で、安全を確保した上で順次施設にお送りする。あるいはご案内するという形になるかと思っております。他の地域でも民間施設で広い敷地を持っている、例えば電力研究所ですとか、そういったところは協定を結んで、まずは市が避難所を開設した時には、なるべく早く職員が施設に行って、駐車場又は敷地を開放して、その次に建物の中を開放できるか準備をして、施設内のいわゆる会議室のような広いところを開放していくという手順で、民間とも協定書を結んでいます。創価学会の会館もその方向で理解をしていただいていますので、もうしばらくお待ちください。

市民：令和5年度に新しいクリーンセンター施設ができるとのことですが、そうしますと新木団地自治会では、第2週の日曜日に、清掃をしているのですが、火曜日と木曜日が今度出せるようになるかと聞いています。それ以外で、特別に回収していただけるかお聞かせください。今資料を作っているのでお願いします。

環境経済部長：では担当からご説明させていただきます。

クリーンセンター課長：今まで通り週1回、ゴミを出していただくことになるのですが、その地域で、もし別の日に回収をしてほしいというご要望があれば、今まで通りどこかにまとめていただいて、市が回収しに行くということは、引き続き行っていきたいと思っていますので、ご了承いただきたいと思います。

市民：クリーンセンターの件で思い出したのですが、新しいクリーンセンターの方が本稼働になりますと有料、燃えるゴミとか資源ゴミ、他資源ゴミもだと思のですが、

有料になると前回の懇談会の時に聞いたのですが、その件はどのように進んでいますでしょうか。

市長：まだ結論は出しておりません。現実的に有料化というのはまず難しいのではないかと考えています。結論が出たわけではありませんで、他の方法として、いわゆる有料のゴミ袋というのがあります。ゴミ袋を皆さんに買ってもらうという、一つの方法です。今、千葉県内で指定ゴミ袋がないのは我孫子市だけです。本市を除く、全ての市町村が千葉県内指定ゴミ袋になっています。ただこれですと、スーパーやコンビニでゴミ袋が売っているのに、わざわざ市の方でゴミ袋に印刷をして皆さんに買ってもらう。だとしたらいくらで販売するのか。そういったことを含めて、今、検討を進めています。あと1年ぐらいかけて検討しようと思っています。いろんな意見が出てきますので、指定ゴミ袋にした方が、ゴミの減量化に繋がるという結果が出るのであれば、多少市が持ち出しをしてもその方がいいのかもしれない。やはり皆さんが、ゴミ袋を買うことになると節約しようとしてくれるので、その方が、ゴミを減らす効果があるかも知れません。我々としては、ゴミを有料にしたいのではなくて、どうしたらゴミを減らせるための協力がしやすいか、という検討をしていると、理解していただければと思っています。来年の春のふれあい懇談会ぐらいには、多少方向性を示して、ご意見を頂戴しながら秋までには結論が出せればと思っています。

市民：周知期間はとっていただけるのでしょうか。

市長：1年ぐらいは周知が必要ですから、例えば急に来月から指定ゴミ袋でないと回収しませんと言っても、市内のコンビニやスーパーなど、全体ですぐ完全に買える状態を作らなければ、ゴミを出せない家庭が出てきてしまいます。そこは、数ヶ月程度の周知期間を取らないと実施できないと思っていますので、すぐには実施になりません。

市民：市の方にもメールで湖北消防署の再生可能エネルギーの利用について、二度ばかりメールでお願いしております。ぜひとも市のシンボルとなるような建物にさせていただきたいと思っています。それで、やはり物の考え方というの、変えていかなければいけないと思います。長い寿命を使える建物に長く使える自然再生可能エネルギーを利用して、そして、今、他の地域で使われているのは、ただ単にエアコンを地中熱ヒートポンプに変えているという例が多いです。そうではなくて、ミックスして組み合わせて使うのだと。そういう良い見本にしてほしいし、特に消防署というのは、24時間人がいて、だからエネルギーもそれなりに使うし、いい環境にしていけないと働く人も大変ということから、ぜひ見本になるような建物にさせていただきたいという希望です。お願いします。

市長：先ほど説明したように今、基本設計が終わって、これから詳細設計に入りながら6

年度の工事に向けて、少し細かく詰めていきます。基本的には新しい公共施設をつくるときには、例えば太陽光を使うとかいろんな形で再生可能エネルギーを導入するという前提での検討は、必ず行なうようになっていきます。その中で今、様々な検討がなされています。空冷のポンプ、エアコン、地熱、太陽光だとか様々なものを検討しながら最終決定をするときに、やはり初期費用がどのぐらいかかるのか。それと、設置した後のランニングコストがどのぐらいかかるのか。この辺をトータルで判断していきます。これから建設する施設は、消防施設です。再生可能エネルギーの建物ではありません。この施設は、湖北地区の消防署ではありますが、先ほど説明したように道路ができれば、天王台から新木までは非常にスムーズに来れる消防署になります。そしてそこに今、救急車2台、消防車1台、そして救助隊を一隊という前提で計画をしています。それによって、我孫子東側地区の拠点消防署として位置づける形をとります。我孫子にあります消防本部は、救急車2台、消防車1台、救助隊一隊、はしご車もありますけれども、東側より西側の方が高層マンションがあり、10階建てぐらいのマンションが多いですから、はしご車はありますが、東側にはそんなに高層マンションはありません。しかし、万が一の倒壊ですとか、あるいは車に閉じ込められたなど、様々な形で救助隊の必要性も高くなってきますので、そこも含めて、湖北の消防署で救助隊二隊体制にするため、さらに一隊増やすというのも含め、また東側は高齢化が少し高いものですから、どうしても救急搬送の件数も多いということで、それに合わせながら救助隊と救急隊を増大するという前提で今計画をしています。その中で、今説明したようにその再生可能エネルギーを初期費用とランニングコストをトータルで検証しています。今のところ結論はまだ申せませんが、もう少しお時間がかかると思います。ただ、少なくとも何らかの形で再生可能エネルギーを活用する前提で、建物は使用しますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

市 民：お尋ねしたいのは、各地域が高齢化により空家が多くなって、問題になっています。それで空き家の管理等について、市の方ではどう考えておられるか、お聞きしたいと思ひます。

市民生活部長：空き家対策については、現在もちょうどホームページの方で空き家対策の計画について、パブリックコメントを実施しております。基本的には持ち主の方に適正に管理していただくように、こちらから通知を出したりするなどして、対応を図っております。先ほど説明した通り、計画を出しておりますので、ご意見等がありましたら、市の方にお寄せいただきたいと思ひます。

市民安全課長：今、部長がご説明しましたとおり、基本的には所有者の方に管理していただければならないという部分で、いわゆる国の方でも空き家の特措法を作って対応していますので、それに沿ってできる限り所有者の方に早めにその通知が届くようにして、場合によっては、所有者の方から直接ご連絡をいただけるようお願いをして、その後

の活用の方法ですとか、そういうご相談をいただけるように促しておりますので、ご近所でそういった困りごとがありましたら、市民安全課空家対策係の方にご連絡をいただければと思います。よろしく願いいたします。